

# 社会科の勉強を始めるにあたって

## 1. 中学校の社会科とは・・・

- (1) 地理的分野・歴史的分野・公民分野の3つの分野を3年間で学びます。
- (2) 1年生の地理はおもに世界について、歴史は近世（安土桃山時代）まで勉強します。
- (3) 2年生の地理はおもに日本について、歴史は日露戦争まで勉強します。
- (4) 3年生の歴史は二つの戦争から現代について、公民を勉強します。

## 2. 授業について

- (1) 学習のまとめ（単元）ごとに、地理、歴史と変わります。
- (2) ノートは必ず、**地理と歴史と公民に分けましょう。**
- (3) 1時間の授業でノート見開きページを使い、いつも、同じ場所にまとめがあるようにしよう。見本のノートを参考にA評価を目指しましょう。

日付 題名 導入・復習 課題 <input type="text"/> 個人追究	全体交流      学習のまとめ <input type="text"/>
--	--

### (4) 発表のルールについて

小学校の時からやっている「つけたし」とか、「〇〇さんとちがって・・・」とか、「〇〇君とはここが似ているけど・・・」などを大事にします。

特に社会科では、資料などを使って調べたことを発表する場合、「**どのグラフから、どの資料から、どの表から、□□ということが分かる。**」という言い方を身につけてほしいです。さらに、「**この資料（グラフ）からこういうことが言えるから、こんなことが考えられる！**」とか、「**このことから、自分はこう思う。こう考える。**」といったように、自分の考えをつけ加えることができるとすばらしいです。

## 3. 評価について

1～5で評価することになります。では、どうやって評価をしていくのかというと、定期テストや単元テストの点数や、日頃の学習の様子や授業への意気込み、ノートやワーク、宿題の提出状況、ノートの中身（自分の考えや調べ学習の様子など）など、あらゆる面から評価していきます。つまり、**毎日の授業や努力が一番ものを言います。**

関心・意欲・態度	・授業への参加状況・忘れもの ・ノート、ワークの提出 ・授業での挙手・発言・ノートづくり
思考・判断・表現	・定期テストの思考判断表現 ・授業中の発言内容 ・ノートのまとめの内容
資料活用の技能	・定期テストの資料活用の技能 ・授業中の発言・ノートづくり
知識・理解	・定期テストの知識 ・理解・単元テスト

## 4. 次の時間からの学習について

1年生	2年生	3年生
<b>【地理的分野】</b> 第1編 世界のさまざまな地域 第1章 世界の姿 ①地球の姿を見てみよう	<b>【地理的分野】</b> 第2編 日本のさまざまな地域 第2章 世界から見た日本の姿 2節 世界から見た日本の人口 ①世界の人口分布と変化	<b>【歴史的分野】</b> 第6章 二度の世界大戦と日本 1節 第一次世界大戦と日本 ①第一次世界大戦

昨年度まで6月に行っていた、前期中間テストは臨時休校の影響で中止になりました。

定期テストは8月の前期期末・後期期末のみとなります。

そのため、単元テストを定期的に行い、評価していきます。よろしくお願いします。

## 5. 社会科の時間の持ち物について

- ・地理・・・地理4点セット（地理の教科書・地理ノート・地図帳・ビジュアル地理）
- ・歴史・・・歴史4点セット（歴史の教科書・歴史ノート・地図帳・歴史資料集）
- ・公民・・・公民3点セット（公民の教科書・公民ノート・ビジュアル公民）

※地図帳、ビジュアル地理、歴史資料集、ビジュアル公民は教室のロッカーに置いていく。

### ノートづくりの見本

**左ページ:**

1/8 ヨーロッパの統合  
 共通性…宗教(キリスト教)  
 言語(ゲルマン語系、スラブ語)  
 ↓  
 EUとしてまとめた

**課題**  
 ヨーロッパはEUとしてまとめることでどんな良さがあったのだろうか。

**予想** 経済的な面などで協力があ  
 自分たちの国にないものがEUの国から入る 働く場所が広がる  
 差別がなくなる パスポート不要 共通通貨(ユーロ)  
 フランス、イギリス、ドイツなどの国々が国境をこえた技術協力をを行い  
 航空機の生産をしている → エコノミー効果  
 パスポート不要のため 国境をこえて買い物に行ったり  
 学校に通ったりできる 医師免許が通用する  
 国際高速路 関税がかからない  
 →気軽に他国へ

**右ページ:**

経済的に1つになる  
 政治的に1つになる  
 ↓  
 経済的協力(資源)

アメリカ、日本と比べて  
 人口が5億人に達した  
 1国で頑張っても大国には勝てない  
 国際競争の中で存在感を出す  
 EUになれば  
 大国にも負けない

**まとめ**  
 EUで1つにまとまることで経済的、政治的に1つになれて経済的協力ができ、大国にも負けないくらいに発展できる。  
 パスポート不要で通過が自由なため、国境をこえた通勤や買い物が増え、共通通貨ユーロが導入され、買い物も簡単になる。

1. 偏西風 2. キリスト山 北大西洋 偏西風 国境をこえた通勤や買い物が増える  
 16世紀 17世紀 18世紀 19世紀 20世紀 21世紀  
 混合所有制